

とよつだより

第 1 9 号
 平成22年3月1日発行
 一編集・発行一
 豊津まちづくり委員会
 (広報記録専門部)

賑やかに、和やかに「かるた大会」

1月31日、恒例の『第5回とよつかるた大会』が開かれました。当日は、「未就学児の部」から「シニアの部」まで6部門に合計66名が参加。まちづくりセンターの中は、参加者や役員の熱気であふれました。

会場の和室では、読み手の「よろしくお願いします!」という美しい掛け声(?)までは和やかだったものの、枚数が進むにつれ、徐々に「1枚でも多く…」という競争心が芽生え、各部門で熱い戦いが繰り広げられました。2回実施した合計枚数で勝敗を決めるのですが、表彰式では喜びや悔しさが表情に見え隠れし、充実した大会になりました。

閉会式では、編集委員の藤枝泰一郎先生から「とよつかるた」ができた経緯や豊津の文化や歴史を伝えていくことの重要性が語られ、あらためて豊津地区の素晴らしさを学びました。

閉会式の後には、文化福祉専門部の役員さんを中心に、餅つきが行われ、参加者たちにお雑煮やきな粉餅が振る舞われました。あまりの美味しさに、用意した1斗のお餅はアツという間になくなりました。

参加された皆さん、お疲れ様でした。また来年のご参加、お待ちしております。また、役員の皆さん、ご苦労様でした。

入賞者は、次のとおりです。

【成績】

(敬称略)

<未就学児の部>

- 1位 君和田莉央
- 2位 大川みさき
- 3位 君和田理澄

<中学年の部>

- 1位 青山昂正
- 2位 君和田睦
- 3位 松岡佑香

<一般の部>

- 1位 黒須ゆき
- 2位 斉藤幸子
- 3位 大川和子

<低学年の部>

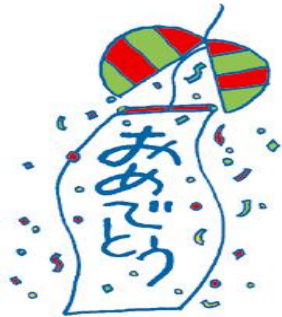
- 1位 君和田潤貴
- 2位 藤枝元輝
- 3位 海老沢更沙

<高学年の部>

- 1位 君和田勁
- 2位 石上珠妃愛
- 3位 大内海渡

<シニアの部>

- 1位 君和田美智子
- 2位 君和田美佐子
- 3位 藤城まさ



【優勝者の一言】

- 未就学児の部 君和田莉央
「かるたがいっぱいとれて、うれしかったです」
- 低学年の部 君和田潤貴
「少ししか練習しなかったけど、優勝できてうれしかった」
- 中学年の部 青山昂正
「優勝できてうれしかった。来年も優勝したい」
- 高学年の部 君和田勁
「久しぶりに優勝できてうれしかった。また来年もがんばります」
- 一般の部 黒須ゆき
「童心に返って楽しむことができました。優勝は想定外だったので、びっくりしました」
- シニアの部 君和田美智子
「孫に負けないように、来年もがんばります」



ウォーキングは、淡いもえぎの時期【4月初旬】がお勧めだそうです。



心より感謝します。

また、水郷県民の森敷地内の間伐材(桜の木)で作った「ふくろう」や、松かさ、どんぐりを材料としたリース作りでは、時間が経つのも忘れるほど夢中になり、久しぶりに物作りを楽しむことができました。リースの材料を集めてくださった担当の方には心より感謝します。



今年度最後の事業である「第四回楽学セミナー」は「新春ウォーキング」と共催で、二月九日に潮来市の水郷県民の森で実施されました。

「水郷県民の森でリフレッシュ!」
 宮崎幸子

『茨城県水郷県民の森』

- ◇所在地：潮来市島須
- ◇総面積：51.5ha (雑木林、平地林)
*大膳池、大生古墳群を有し、自然観察会や体験学習、ウォーキングが楽しめる。
- ◇平成17年6月に『第56回全国植樹祭』開催(天皇・皇后両陛下により、ケヤキ・スタジイ・タブノキが植樹された。)

星の観測会

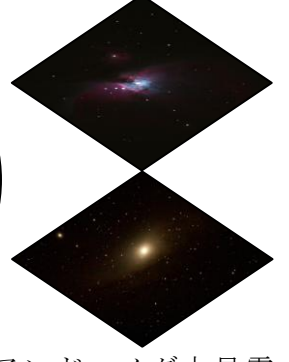


1月16日、大寒間近の冷え込む夜、5年ぶりに星の観測会を実施しました。インフルエンザ流行の心配もよそに、子ども23名・大人15名の参加があり、『鹿行星の会』の協力をいただき、賑やかな観測会となりました。

室内での学習会の後、「そろそろ、宇宙のたびに出かけましょう！」という講師の掛け声で、全員が屋外へ移動し、観測会が始まりました。



オリオン大星雲



アンドロメダ大星雲

「星の観測会に参加して」 4年 藤枝健太郎

観測会の日はとても寒い日でした。でも寒いほうが星はよく見えるとお母さんが言っていたので、期待しました。

公民館に行ってみると、大きな望遠鏡が3台あってすごいなと思いました。

最初に星の会のお兄さんがお話をしてくれましたが、ちょうど学校で星の勉強をしていたので、質問にも答えられました。

その後外に出て望遠鏡で星を見ました。火星とかオリオン大星雲、スバル、プレアレス星団などいろいろな星が見られて、よかったです。

あと、寒かったので、温かいココアがうれしかったです。用意してくれた役員の人たち、ありがとうございました。

「星のかんさつ会」 3年 君和田 武

1月16日、公民館に星を見に行きました。最初に説明があって、いよいよ星を見る時がやってきました。さいしょに大きなぼうえんきょうで見たのはオリオンぎでした。とてつもなく小さな星がかがやいていました。オリオンぎの中央には黒い雲みたいなものが見えました。ぼくは「不思議だな〜」と思いました。あと、ほっきよく星が見られました。ほっきよく星は、いつもそこをうごかないんです。かがやいていました。

星の観測が終わって、先生から1月22日午後6時20分〜23分の間に、うちゅうステーションが見られると聞きました。ぼくは、22日にていぼうに見に行きました。少したったら見えました。大きくて赤、青、みどりの強い光でかがやいていました。とても感動しました。心にのこる思い出になりました。

須保居町の西宮神社は恵比寿様を祭り、通称は恵比寿神社である。恵比寿は一般的に座像が多いが、本尊は右手に釣竿、左手に鯛を持つ立ち像である。祠には文久二年（一八六二）新造と記載されているが、由来等は不明である。夷講は耐えて久しいが、町内では今でも十月に祭事を行っている。

西宮神社は、須保居町の東南端（銚子屋商店裏）に位置し、本社は兵庫県西宮市社家町に鎮座し、蛭児大神を祭り、天照大神・大国大神・須佐之男大神を配祀する。蛭児大神は、世に「えびすさん」として親しまれ、文献の初見は平安後期であるが、中世以来福神信仰の隆盛とともに社勢が伸張し全国に流布した。

須保居町の西宮神社建立に係わる書類等は不明である。現存する書類は、大正三年の修繕と昭和五十二年の改築に関するものである。「えびす」は、恵比寿・夷・戒とも標記されるが、竜王や船霊とともに漁業の守護神として信仰されている。その後、海運の発達とともに都市や農村にも普及し、中世以降は七福神の一つに数えられている。なお、夷神を祭る行事は、商家の同業集団や農村の地域集団の祭祀組織に発展したのが夷で、祭事日は十月二十日が一般と言われる。

西宮神社は、須保居町の東南端（銚子屋商店裏）に位置し、本社は兵庫県西宮市社家町に鎮座し、蛭児大神を祭り、天照大神・大国大神・須佐之男大神を配祀する。

鯛持つて
大漁祈る
立ち恵比須

とよつかるためぐりシリーズ④ 西宮神社と立ち恵比寿

《中年男の独り言》
初めて「かるた大会」に参加したが、豊津についての知識不足の結果、札は何枚もとれませんでした。（物覚えも悪い！）これを機に、新たに豊津の歴史・文化等を勉強し継承していきたいと思えます。まずは「とよつかるたウォーキングマップ」を片手に、散策から始めよう！



大船津文化を守る会の皆さんが神前において、おさかもり（「みろく」とも言われ、豊年をもたらすとされている目出度歌や踊りで、祭頭祭を嘶してお開きとなる）を奉納します。初午祭は、近郊在住の多くの信仰家の人々が参拝に訪れ祈願しています。

当社には郷内の守護神として、また食物の神、農業振興の神として、信仰崇敬されてきましたが、近世になると商工業が盛んになるにつれて、商売繁盛・家内安全・学業成就・病氣平癒・五穀豊穰など、福徳開運の万能の神様として、近郷在住の人々から広く信仰されています。

祭例行事は、毎年二月の初午と、旧暦の九月十一日を秋の例祭として、氏子、御堂（区内の講者）の皆さんが境内に幟旗を立て、注連縄を飾り、御神酒や油揚げ、お餅などをお供えしてお祭りをします。

初午大祭
稲荷神社の歴史は古く、寛政年間（西暦一七八九〜一八〇〇年）に創建された霊験あらたかな由緒ある神社です。昭和三十九年九月に、大船津出身の東京都江戸川区実業家、青野理三郎さんの浄財寄進と、近郷の信仰家及び氏子の寄進により新築され、現在の社殿となっています。

とよつかるためぐりシリーズ⑤ 四ツ谷の「森の稲荷神社」

高亮繁盛
祈願は
森の稲荷様